

[1998年9月26日(土)]

八尾市教育委員会文化財課

1. 発掘調査の経緯と今回の調査箇所

八尾市教育委員会では、心合寺山古墳において、これまでに史跡整備のための発掘調査を5次にわたり行ってきました。特に平成9年度(第5次発掘調査)からは、本格的な発掘調査を開始し、墳丘西側くびれ部において貴重な成果が得られました。

そして、今回、平成10年度(第6次発掘調査)は、7月上旬から後円部と前方部の頂部平坦面を中心に約500㎡の発掘調査を実施しました。前方部は平成4年度(第1次発掘調査)で検出した埴輪列の延長を確認するために平坦面西側を中心に調査区を設定し、後円部では後円部中心点を中心に約12m四方の調査区を設定しました。

2. 今回の発掘調査の成果について

[前方部頂部]

1. 南北埴輪列の検出

平坦面の南を画する埴輪列が西端で屈折したのち、後円部に向かって南北方向に一直線にのびる状況を確認しました。

a) 今回検出した埴輪列は、約30mにも及び、円筒埴輪を中心にほとんどが近接した状態で、約100個体が並べられていました。

b) 埴輪列は、南側ではやや斜面側に倒れ込んだ状態であるものの、北側へ行くにつれてほぼ直立した状態で出土しています。

c) 埴輪列中の円筒埴輪は、小型のもの(径20cm前後)で、列中に一部朝顔形埴輪も並べられていたようです。また、列の内側で壺形埴輪も出土しています。さらにこの埴輪列の外側には、約5m間隔で蓋形埴輪(きぬがさがたはにわ)とこれをのせていたと考えられる円筒埴輪(径約30cm以上の大型品)がみられました。その他の形象埴輪については、前方部では確認できませんでした。

2. 方形壇状遺構(ほうけいだんじょういこう)の検出

前方部の埴輪列の内側に約3m離れた位置で、葺石よる方形壇状遺構を確認しました。

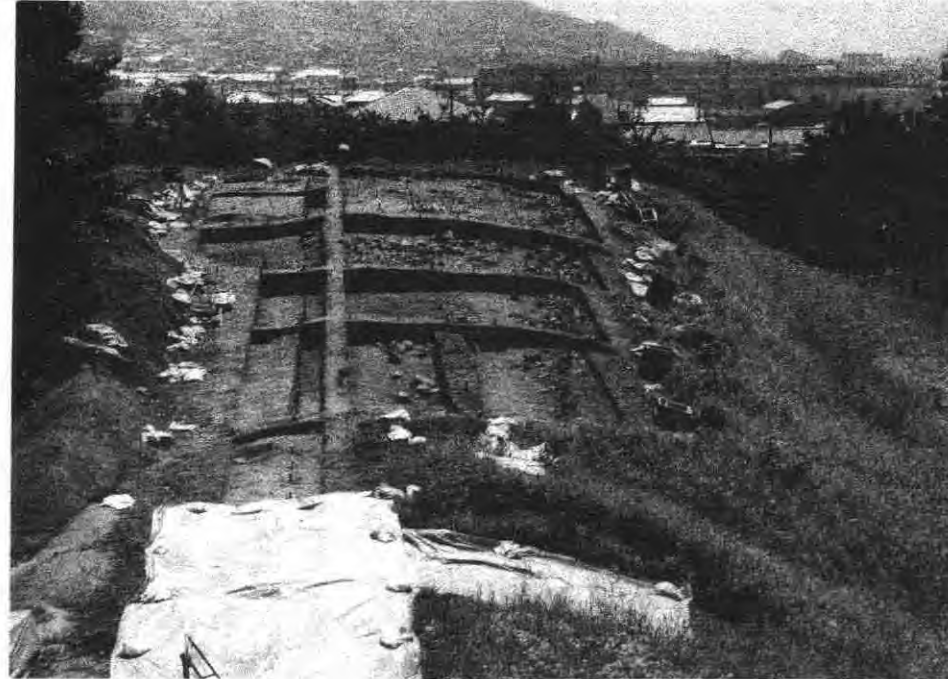
a) 遺構の北西コーナーをなす、南北約6m、東西約3.5mの基底石と葺石を検出しました。東側やその他の部分は、削平を受けているため、規模や高さなど全体像は不明です。墳丘中軸ラインから反転させて復元すると、南北約7m、東西約5mの方形の低い壇状の遺構になります。

b) 中世以降の削平が著しかったために、この遺構の性格については、埋葬施設の有無等を含めた今後の検討が必要ですが、現段階では基底石裾や周辺で出土した土師器の布留式甕(ふるしきかめ)と二重口縁壺(にじゅうこうえんつぼ)から、これらを用いた何らかの祭祀が行われていたものと考えられます。また、壇の上の埴輪については、流入土から小片が出土しているものの現位置を保つものはありませんでした。

c) 北端の基底石北側では、10cm大の礫が敷石状に約1m幅で見られ、これらが本来は基底石の四方に敷かれていた可能性があります。

[後円部頂部]

1. 後円部の平坦面は、後世の削平・攪乱等が激しく、埴輪列等の検出はできませんでした。しかし、流入土の中から、円筒埴輪の破片以外に家形埴輪の一部や甲冑形埴輪(かっちゅうがたはにわ)の草摺片(くさずりへん)などが出土しています。



前方部調査区全景

心合寺山古墳



前方部

埴輪列

検出状況(北から)



前方部

埴輪列および方形壇状遺構

検出状況(北から)

これらは、後円部に置かれていた埴輪の構成を知る上で貴重な資料となるでしょう。

また、心合寺関係の遺物と考えられる平瓦の破片が少量出土していますが、遺構等は検出できませんでした。

2. 埋葬施設については、後円部の上層の攪乱が著しく、そのため墓墳（ぼこう・埋葬主体を収めるためのあな）の平面検出等を含めた調査を現在継続中です。これまで長持形石棺（ながもちがたせっかん）の存在等が指摘されてきましたが、流入土にも石材等はほとんど含まれていませんでした。このため、他の構造の埋葬施設の可能性も含めた検討が必要で、今後の調査で明らかにしていきたいと思っています。

3. まとめ

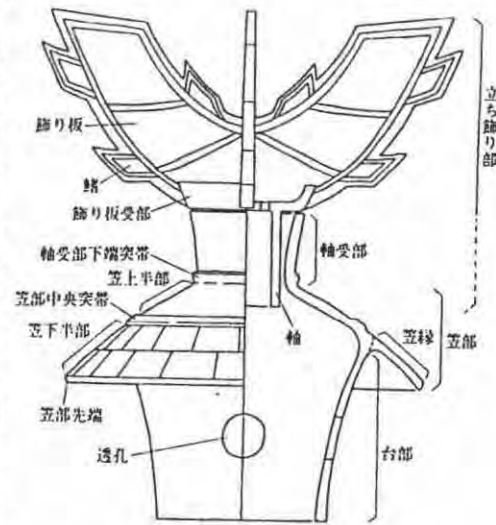
今回の調査で以下のことがわかりました。

- 1) 前方部頂部の平坦面の端から後円部に向かってほとんど隙間なく、円筒埴輪が並べられていたことがわかり、さらに埴輪列の構成がわかりました。大型前方後円墳のこの部分の資料がほとんどないなかで、古墳時代中期における前方部平坦面の埴輪列の復元を考える上で貴重な資料になります。
- 2) 前方部埴輪列の内側には、葺石により区画された方形壇状遺構が存在していたことがわかりました。この遺構の性格については、土師器などを使用した祭祀が行われた可能性が高いものと考えています。またこのような方形壇状遺構は畿内でも調査例がなく、全国的にも珍しいものです。
- 3) 後円部においては、埴輪列は検出できませんでしたが、後円部の形象埴輪の構成を知る資料を得ることができました。

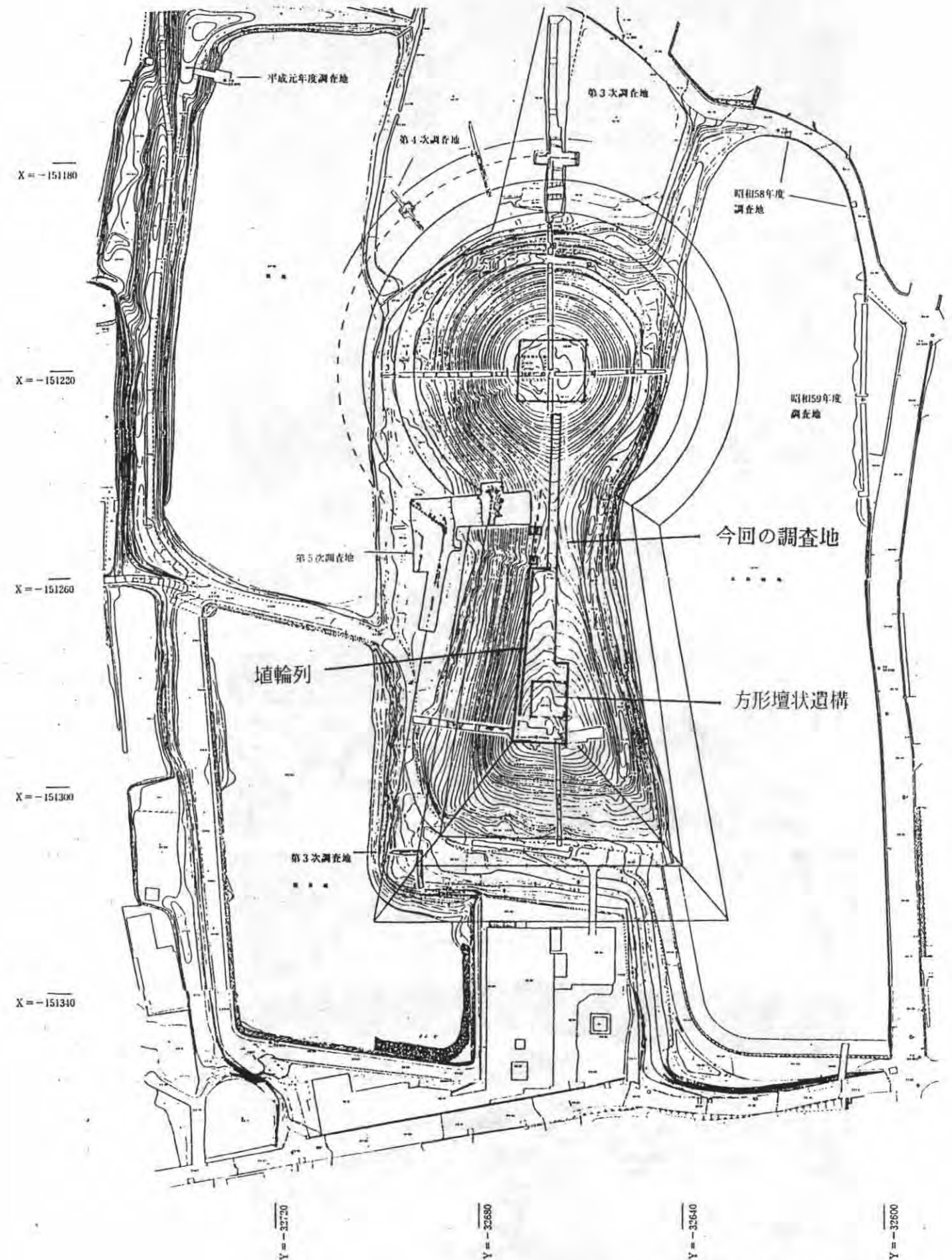
心合寺山古墳は北・中河内最大の前方後円墳で、この地域一帯を治めた首長の墓とみられます。今回の調査で首長墓を飾るにふさわしい埴輪列や、特徴的な方形壇とみられる遺構が確認できるなど、大きな成果を得ることができました。



心合寺山古墳位置図



蓋形埴輪の部分名称
 (『鳥居前古墳 総括編』より転載)



今回の調査区設定図 (1/1000)

※墳丘部の7ヶ所のトレンチ 第1次調査地
 前方部里道部のトレンチ 昭和63年度調査地